

はじめに

本学では、リベラルアーツの精神を基盤とした教育を基礎として、変化し続ける国際社会で通用する人間性と専門性を持った学生を育成するために、様々な取り組みを行っています。日本語教育センターでも、その一環として、新しいタイプの正規学部留学生の受け入れや海外協定大学から学びに来る留学生との協働について、開発、改善を進めており、これまでも様々なテーマで発信をしてきました。

国際化へ向けた大学の改革、グローバル人材の育成には、「これで完成」というステージはありません。変化する世界を常に意識し、柔軟に形を変えながら進めるべきことからであるからです。そこで、今年度は、「社会・コミュニティを変える力とは？—21世紀の日本をけん引する立教型グローバル人材育成を日本語教育の視点から考える—」というテーマで、改めて本学が目指そうとしている国際化、育成しようとしているグローバル人材とは何かを確認し、その上で日本語教育センターが果たせる役割を考える機会として、シンポジウムを開催しました。

今回の企画は、日本語教育センターが運営する様々な企画や留学生を対象とした日本語の授業に参加した学生たちの学びに焦点を当て、日本語教育センターが今後果たすべき役割、さらには、果たすことができる役割の可能性について考える企画となっています。当日は、海外からの登壇者もいたため、ハイブリッド形式で実施しましたが、活発な意見交換の時間とすることができました。単なる外国語としての日本語教育を提供する組織ではなく、高等教育機関にある日本語教育センターの持つ可能性について、考えるきっかけになればと思っています。

ご登壇くださった松井秀征先生、コメンテーターを務めてくださった中村拓海様、学生としての学びを共有してくれた益本佳奈さん、中内美沙さん、小西佐和子さん、そして、暖かいご挨拶をくださった石川巧先生、敵成男先生、杜国慶先生、当日ご参加くださった皆さまに厚く御礼申し上げます。また、企画・準備、そして当日のセッティングから本報告書をまとめるまでご協力くださった日本語教育センターの皆様にご心より感謝の意を表します。ありがとうございました。

日本語教育センター長／異文化コミュニケーション学部教授

池田 伸子